

暮らしナビ ライフスタイル

理解と工夫で「社員」続ける

認知症 新時代

第4部 できることがある ①

社会とつながり、何か役割を果たしたい、と思うのは認知症の人と同じ。それがかなえられないのは「認知症になると何もできなくなる」という社会の側の思い込みではないだろうか。第4部では「働きたい」「居場所がほしい」などの本人の願いに耳を傾け、それを実現しようとする現場をたずねる。



人事に関する仕事を担当する丹野さん。作業を間違えないよう確認を繰り返すという＝仙台市宮城野区のネットヨタ仙台本社で

●顧客の顔分らず

午前7時20分。自宅を出て近くの停留所からバスで駅に向かう。地下鉄とJR線乗り継ぎ会社までは約80分。仙台市の会社員、丹野智文さん(40)は、スーツ姿で通勤するサラリーマンの一人だ。連うのは、カバンの中のパスケースに「若年性アルツハイマー本人です」と書いたカードを入れておく。昨春、39歳で若年性認知症と診断された。

カードには通勤ルートも書いてある。電車やバスを乗り過ぎたり、途中で自分の居場所が分からなくなった時、近くの人に尋ねて尋ねる。大学を卒業後、自動車販売会社「ネットヨタ仙台」に入社した。数年で独学でフルタイム勤務の車を扱う部署に異動し、以来10年以上、営業マンとして働いた。約300人の顧客を開拓し、店舗トップの成績を誇った。

●営業から総務へ

現役世代で認知症を発症し就業継続できるケースは、支援体制の不備もあり、ごく限られていくのが現状だ。これに丹野さんは不安を抱えながら、診断結果を報告するため妻(40)と本社に向かった。野重和夫社長は丹野さんに「すぐに本社に来なさい」と異動を命じた。営業は無理でも事務作業はできるのではないかと考えた。総務や人事を担当する部署

に異動し、以来10年以上、営業マンとして働いた。約300人の顧客を開拓し、店舗トップの成績を誇った。異変を感じたのは5年ほど前だった。手帳に「〇〇さん」と顧客の名前を書いておいても、何の用事で連絡するのかわからなくなった。自分の顔が来客しても分からず、同僚にお客さんだと知らされたこともある。それまでは、店に入ってきた車のナンバーを見ただけで、自分の顧客だと分かった。いつもの顔を合わせる同僚の名前も出てこなくなった。それは2012年の年末。3カ所の医療機関で検査入院を繰り返した。その間に、営業マンの「財産」である顧客を同僚に引き継いだ。若年性のアルツハイマー型認知症と確定したのは翌年4月だった。

野重社長は「お客さんに愛されてきた丹野君が同席すると、不思議と成約率が上がった」と笑う。「丹野さんを通して車を買い替えた」と、かつての顧客から連絡が来たこともある。一方、次第に仕事の能率が落ちていくようにも感じる。今年6月、上司に勤務時間の短縮を提案された。疲れやすい様子を見ての判断だった。「同僚と同じように仕事をしたくない」と、その場では断った。翌日、サポートを受けている「認知症の人と家族の会宮城県支部」の世話人、若生菜子さんに相談した。「周囲がどう思うか」と思っているのは事実。長く勤めるには無理をしないことも大事」とアドバイスされた。考え直し、退勤を1時間早め午後4時半までの勤務にした。

丹野さんへの対応について野重社長は、うつ病など他の病気の人と同じで、特別なことではないと考えている。「一定以上の規模がある企業なら、こうしたリスクは吸収できる。病気になっても働ける」ということは、今は元気な社員も安心して働けることにもつながる」と言う。症状が進んでも「会社に来られる限り、仕事は用意できる」とサポートを続ける方針だ。営業マンだった頃は夜遅くに帰宅し、休日にも顧客の誘いでゴルフに行くなど、仕事中心の生活だった。今は夕食を

家族をろって食べ、中学生の娘2人とのお話も増えた。●病氣「恥じない」先行きに不安がないわけではない。5月にあった、認知症の本人と家族の交流会に夫婦で参加した。妻は、症状が進行した人の様子を見てショックを受けたが一人によって症状も進行の度合いも違う。心配ばかりしても仕方がないと考えるようになった。丹野さんはそんな妻の将来を案じ、夫婦に必要になったら施設に入れてほしいと伝えた。今夏、中高生時代に所属した弓道部の仲間が十数人集まった。丹野さんは軽い調子で自分が認知症だと伝えた。次に会った時、みんなのことを忘れていたら、ごめんね。すると3歳上の先輩が言った。「大丈夫。お前が忘れても俺たちが覚えてるから。集まりに来られなくなっても、俺たちが会いに行くから」。言葉に詰まり、返事ができなかった。

この病気を恥ずかしいと思う必要はない。自分が話すことで認知症を知ってもらえたり、励まされる人がいたりすればうれしい。そんな思いから、頼まれると、体験を話すため全国各地の認知症の勉強会へ出かける。支援制度の不備や病氣への理解が十分でないことも、少しずつ変えていければ、と願いを込めて。【五味喬織、写真も】

若年性、家計影響大きく

65歳未満で発症する認知症を「若年性認知症」という。厚生労働省研究班の推計(2009年)では、全国に約3万7800人とされる。高齢で発症する認知症と原因や症状に大きな違いはないが、働き盛りの子育て世代で発症することが多いため、就労の継続や家計への影響が大きい。

発症後の就労状況について、全国規模の調査はこれまでなく、実態は把握されていない。ただ、東京都や北海道、兵庫、青森の各県など、独自に調査した自治体もある。調査方法が異なるため単純に合算はできないが、各調査の結果を総合すると、発症後に退職や解雇、休職を余儀なくされた人は8割前後に上るとみられる。一方、発症前と同じ企業や職場で働いている人は1割前後にとどまり、就労継続が難しい現実が浮かぶ。

を溶え、絞か なめ一好いた